



全教北九州

新聞 全教北九州

全教北九州市教職員組合

発行責任者 中川喜久子

2018.5.10

ホームページ： <http://zenkyokitakyushu.sakura.ne.jp/index.php>

この新聞はすべての教職員に配布しています

2018年度春闘要求書 重点項目（全8pに渡るため詳細はHPをご覧ください）

◆教職員の賃金と雇用の改善について

- 基本賃金の引き上げ
- 教職員の「給料表」の適用および「給料表」の格付を改善すること。
幼稚園教諭（教育職給料表 2級） 常勤講師（教育職給料表 2級）
栄養職員（医療職（二）表） 他
- 交通用具使用による通勤手当を大幅に改善すること。
- 部活動指導などの日曜・休日出勤に対する交通費実費を支給すること。
- 臨時教職員の雇用の賃金、諸手当について正規任用者との均等待遇を図ること。

◆教職員の長時間過密労働解消、労働時間、休日、休暇等の改善について

- 全ての教員の持ち授業時数の上限を小学校で週20時間以下、中学校では週18時間以下とすること。
- 複数教科の授業が行うために必要な専科教員をすべての小学校に配置すること。
- 時間外勤務については「振替」などで適切に調整すること。
- 教職員の定数については完全に配置し、教育に「穴をあけない」こと。
- 教職員定数は、正規教員で配置すること。
- 部活動による長時間過密労働を解消するため、勤務時間の割振り変更の措置、最低でも土日のいずれかを休みとするなど、具体的な措置を徹底すること。
- 家族休暇制度を新設すること。当面、「子の看護休暇」制度を拡充し、家族を対象に、予防接種、健康診断、疾病・けが治療などにあたるようにすること。
- 学校・園行事参加などの子育て支援休暇を新設すること。
- 臨時・非常勤職員の産休取得にあたって、代替措置をおこなうこと。
- 教職員の負傷または疾病のための治療、休養にあたっては、診断書の提出を7日以上の場合にすること。

◆教職員のいのちと健康を守る施策等について

- すべての学校に男女別トイレ・更衣室・休憩室の設置、保健室・プールに温水シャワーの設置すること。
- 妊娠教職員、病気加療中、休職明けの教職員などの労働軽減をおこない、必要な代替教職員を配置すること。

◆憲法と子どもの権利条約にもとづく民主的教育を確立するために

- 「道徳」の指導と評価において、子どもたちの内心の自由を侵害しないこと。
- 「外国語活動」「外国語科」の指導に当たって、全小学校での専科教員の配置を行うこと。
- 教育現場にそぐわない競争原理を導入し、学校から豊かな人間関係を育む土壌をなくす等のゆがみを助長する学力テスト及びその対策を中止すること。

◆教育条件の整備について

- 小学校・中学校・高等学校の全学年で35人学級を実施すること。
- 特別に支援が必要な児童生徒に対する人的配置を充実させること。
- 普通教室に加え、特別教室へのエアコン設置、洋式トイレへの改修をおこなうこと。
- 養護教諭の複数配置をすすめること。
- 専任の学校図書館司書を全ての学校に配置すること。当面、学校図書館職員の全校配置をおこなうこと。

春闘要求書を提出（四月十九日）
北九州市教職員の待遇改善と教育条件整備を求めろ！

せんせいの学校開校式に 48人

四月七日(土)の午後一時より、ウエル戸畑にて、「せんせいの学校開校式」を行いました。

前半は、すきま時間にできる集団づくりゲームの紹介、小学校・中学校・特別支援教育の三つに分かれての分科会を行いました。分科会では若い先生が学級づくりや保護者とのかわり方、授業づくりなどを報告しました。

後半は、大東文化大学准教授の渡辺雅之さんの講演。テーマは、「人権の旅へ〜人はなぜ学ぶのか〜」でした。

「特別の教科 道徳」の教材への切り口なども交えながら、日頃私たちが気づいていないこと、気づいていながらも深く考えていないこと、自分とは異なる他者とどうつながっていくのか、どう生きていくのか、学びの本質はそこにある、というお話でした。

(メーデーでの発言) 子どもたちの今と未来を豊かなものに!

全教北九州市教職員組合 中川喜久子
みなさん、自民党は憲法9条と合わせて憲法26条も変えようとしていることをご存知でしょうか。自民党改憲案では当初言っていた「教育無償化」の看板はおろし、3項を新設し「教育が国の未来を切り開く上で極めて重要な役割を担うもの」と定義しています。国の未来のために教育を行う、まさに今回の学習指導要領改訂は「特別の教科道徳」をはじめ、国や公共の色が濃いものとなっています。また、外国語が3年生から始まるように改訂され、北九州市では全国でも珍しい移行措置の全面前倒しを行いました。そのため、4年生は2年間分、5年生は3年間分、6年生は2年間分のカリキュラムを1年間で学習します。このことが、教師にも子どもたちにも大きな負担をもたらしています。

また、学力向上の名のもとに、昼休みを短くした分放課後に補充学習を行ったり、昼休みに一部の子どものみだけ補充学習を行ったりする学校が増えています。子どもたちは遊びを通して、けんかをしながらでも成長していきます。貴重な時間なのです。子どもたちに学習の保障をするためには、少人数学級の実現、教員の配置を増やして勤務時間内に授業準備が十分できる時間の確保が最優先です。条件整備は棚上げにして子どもたちと教職員に負担を押し付ける、こんな教育行政にはNO!と言いましょ。子どもたちは言えません。私たちは、みなさんと手を結び、子どもたちの今と未来を楽しく豊かなものにするために、運動をすすめています。

感想より
○ 教師として子どもたちの前に立ちながら、知らないことがたくさんあることを思い知りました。講演を聴いて涙したのは久しぶりでした。



北九州統一メーデー開催

五月一日、五月晴れの勝山公園図書館広場で、メーデーが開催されました。今日、メーデーは、労働者の国際的な祭典の日といわれ、また労働者階級がその威力を国際的にしめす日とされていますが、そのそもその起源はどういうところにあったのでしょうか。国際メーデーのきっかけをつくりだしたのは、アメリカの労働組合が、一日の労働時間を法律で八時間以内と制限することを要求して、一八八六年(明治十九年)の五月一日におこなったゼネストです。

平日に開催されるため、関心を持ちにくい行事かもしれませんが、代表して参加して、すべての働く人の命と健康を守り、一日を、また人生を充実したものにするために八時間労働を守らせることの必要性を感じました。

●八時間労働の歌●

おれたちは仕事をほっぽりだそうと思おう。
おれたちはやっとこさ、生命をつなぐだけの金で働くことにまったくつかれきってしまった。
考える時間なんか一時間もないのだ。おれたちはお天とうさまの光をあびたい。
おれたちは花の匂いをかぎたい。神さまもきつとそうしたことをごぞんじでいられるはずだ。
だからおれたちは八時間労働がほしいのだ。
おれたちは造船所や大小の工場から、おれたちの仲間をよびあつめよう。

第一の八時間は仕事のために、
第二の八時間は休息のために、
そして残りの八時間はおれたちの好きなことのために!

(「八時間労働の歌」R・Oボイヤール、H・Mモリス著 『アメリカ労働運動の歴史I』岩波書店)

